フィットネスの座標

高橋浩平

彼は頑強な足腰でオフィス街をチョロチョロと動き回り、食堂でビタミンと糖質とタンパク質を寸分違わぬ分量で摂取するために一番不味いEセットを選び、ふざけた角度の椅子で膠着した膝をもう一度柔軟に戻すために自転車で帰宅し、その日に受けた侮蔑をなかったことにするために法律に触れない範囲の気晴らしをする。寝るのは早く、起きるのも早い。大きな声で挨拶をするから悪口を言われてもかき消すことができるし、喉の筋肉もそう簡単には衰えない。男には男の、女には女の役割があると心から信じていて、それを全力で全うするべきだと思っているが、性別などないという顔でニジニジ歩くこともできる。現代に興味津々で、ソーシャルメディアを一通りインストールしたデバイスを肌身離さず持ち歩いているが、全く依存していなくて、自分の時間を寄付だと思って指を縦に滑らす時間を仕方なく確保している。喫煙なし。グローバル企業の広告が好きだが、国産の商品はもっと好きで、国産のグローバル企業が一番好き。いつでも戦争に行けるように週2回はジムに行く。もちろん自転車でな。ほうれい線が深く、おでこの皺だけ全くなくてハンサムだし、朝食は野菜汁だけでタンパク質は体のどこかから寝ている間に湧いてくるし、カフェインなしで集中力が丁度八時間持つし、朝の体操で関節一つならないし、脱税が怖いから税金は少し多めに払うし、家族構成はよくわからないが人口ピラミッドに逆らっているようだ。しかし、そんな中途半端なフィットネスではダメなのだ。フィットネスとは何かにピッタリハマって動けなくなることである。正確には、目に見えるほどの動きができなくなり、ポメラニアンと同じスピードで震える状態になることだ。フィットネスには座標がある。上下運動と前後運動と左右運動が交差し、目にみえる運動が力の限り止められるその一点にフィットネスの座標がある。

横浜エレベータのスタッフ　―長時間の扉の開き続けがエラー信号を送り、うちの会社のエントランスの扉をしつこく開け続けているのです。分かりますか。うちの会社の扉はそれぞれ管理するエレベーターの扉と連動していましてね。このエレベーターはうちのエントランスの扉と連動しているんです。今朝からずっとエントランスが開きっぱなしで、浮浪者なり子供なり獣なり土埃なり入りたい放題なんですよ。事情は分かりませんが、ここからどいていただけませんか。正直すごく迷惑しているんです。あなたのせいで今日も徹夜だ。全くこっちは昼飯抜きで、寝不足で、コーヒーとタバコと酒で何とか立っているようなもので、年齢の割には健康診断では再検査の項目があって、ソーシャルメディアを一通りインストールしたデバイスを肌身離さず持ち歩いて、依存していて、ヨガはやってなくて、音楽は好きで、肉を毎夕食に食べるし、他の人よりも大分不幸なんですよ。どうかポメラニアンみたいに震えるのはやめて下さい。一つお伝えすると、私は若いうちに死んでしまうのです。やっぱり変えます。私は若く活力に溢れていて、放っておけばそのまま八十歳までは歩き放題だけど、その未来を投げ打って若いうちに死んでしまうんですよ？